

審査の結果の要旨

氏名 陳建中

提出された論文「台湾の都市化集落における道路整備後の屋外着座場面の継承に関する研究」は、近代以前に構築された居住環境の近代化に伴う変容過程を明らかにし、特に道路整備事業という普遍的な都市化事業の実施によっても消滅しない、人間行動と居住環境の関係がどのようなメカニズムで継承されるのかを、屋外着座場面の行動観察を通して明らかにしようとしたものである。

都市の拡大に伴い、台湾高雄市における旧集落地区でも、都市環境整備を目的とした道路整備事業が行われてきた。これら道路整備によって、伝統家屋は切断され、取り壊され、建替えられてきた。このようにして変化を余儀なくされた旧集落において、住民がどのように居住環境を再構築しているのかという点を明らかにし、今後、居住環境の質の向上を図るためには、旧集落において実行された道路整備事業に対する事後評価や考察が必要である、というのが本論のバックグラウンドとなっている。そして近年、住宅の閉鎖性が強まっている一方、屋外活動の発生やコミュニティの形成等が重視されていることに鑑み、本論では過去屋外着座場面が存在した旧集落において、屋外着座場面が持続的に行われていることに着目している。

具体的には、台湾の都市化集落である後勁（ホウジン）集落を研究対象とし、当該旧集落が、いかに道路整備がもたらした影響を受け入れつつ、建替え・再構築によって現在のような居住環境になったのか、居住環境の変遷プロセスを明らかにすることを通して、特に屋外空間に住民が自発的に設置した腰掛けに着目し、変化した居住環境に対してどのように住民の屋外での使われ方が変容してきたのか、「屋外着座場面の継承のメカニズム」を解明することを目的とする。

本論の構成は、研究の背景、目的、既往研究、論文の構成を述べた第1章の序論をはじめとして以下のとおりである。

第2章では、都市化集落における屋外空間と屋外活動場面に着目し、屋外着座場面の考察方法と考察の手順を整理した。まず、従来屋外着座行動が行われていた都市化集落を研究対象とし、現在の屋外着座場面の発生状況及び屋外着座場面が誘発された要因を考察できるように、都市化集落における屋外着座場面の考察方法を導いた。さらに、時間軸によって、社会背景と居住環境、計画手段、屋外活動の側面から、都市化集落の形成プロセスを整理した。また、「道路整備手法」と「家屋の道への接し方」を「屋外活動誘発空間条件」として定

義した。最後に、屋外着座場面の意義を論じた上で、都市化集落における屋外着座場面の考察方法と手順を定めた。

第3章では、本論で事例研究の対象とした後勁集落の歴史や道路整備事業の経緯などを把握した上で、居住環境の空間的変遷プロセスを明らかにした。台湾高雄市楠梓区における後勁集落は、1661年に形成された古い集落である。1970年の後勁集落では、昔からの既成道路が残され、主に伝統家屋や中庭(埕)、集落の既成道路、路地等で構成された集落であったが、1980年頃から次々に計画道路が整備されてきた。後勁集落における伝統家屋は、都市化・道路整備事業を受け入れた後、主に「維持」、「切断」、「建替え」が行われた。このような状況下で、後勁集落では、高齢者居住や建替え困難、空き家発生という3つの課題が取り上げられた。伝統家屋は取り壊され、現代家屋に建替えられ、または保存されており、現代家屋と混在している状況であり、道路整備後の居住環境と住宅形式の多様性が存在していることを確認し、住宅形式と土地所有類型との組み合わせの多様性について確認した。

第4章では、「家屋の道への接し方」と屋外空間での使われ方、居住生活の状況を取り上げた。後勁集落における観察調査やインタビュー調査より、日常生活において、住民が様々な形で屋外空間を使用(腰掛けや鉢植えの設置等)していることがわかった。かつては伝統家屋の三合院の中庭(埕)で冠婚葬祭が行われていたことが実地調査により確認されたが、近年も従来と同じく使われていたことも同時に確認された。多くの伝統家屋が建替えられた結果、中庭(埕)の代わりに道路を使って、冠婚葬祭が行われたことが確認された。

第5章では、後勁集落における屋外着座場面の事例を考察した上で、屋外着座場面のパターンから継承のメカニズムを解明した。考察範囲とした「後勁核心地区」(「内側、外周」)において、本論で取り上げた屋外着座場面の事例は、合計127場面があった。まず、屋外活動誘発空間条件(道路整備手法、家屋の道への接し方)を軸に考察を行った。また、屋外着座場面の継承の状況によって、取り上げた事例を8つの「屋外着座場面のパターン」に整理した。

さらに、前述の8つの屋外着座場面のパターンの考察結果から、以下5つの「屋外着座場面の継承の仕方」をまとめて、後勁集落における「屋外着座場面の継承のメカニズム」を解明した。

第6章では、本論が取り上げたことをまとめて、都市化集落の居住環境に対する展望と今後の課題について言及した。

このように本論は、道路整備事業という普遍的な都市化事業の実施によっても消滅しない、人間行動と居住環境の関係がどのようなメカニズムで継承されるのかを、屋外着座場面の行動観察を通して明らかにすることに成功している。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。